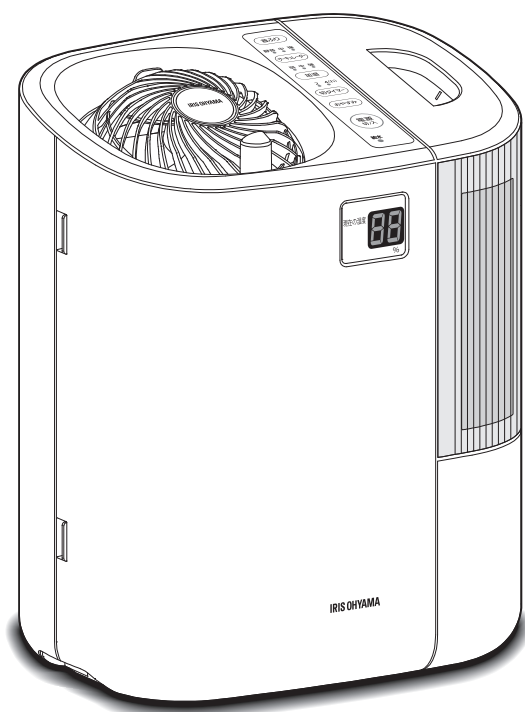


サーキュレーター加湿器

HCK-5519

取扱説明書



この商品は海外ではご使用になれません。
FOR USE IN JAPAN ONLY

保証書付 (裏表紙)

このたびは、お買い上げいただきまことにありがとうございます。

- この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
- 使用する前に「安全上の注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書はお使いになる方がいつでも見ることができるよう大切に保管してください。
- 「保証書」は「お買い上げ日」「販売店名」の記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

ご使用の前に

安全上の注意	2
使用上の注意	4
各部の名称	5

取り扱いかた

準備	9
使いかた	10
お手入れ	12
収納のしかた	16

こんなときには

故障かな？と思ったら	17
仕様	19
保証書	裏表紙
保証とアフターサービス	裏表紙

安全上の注意

最初に、この「安全上の注意」をよく読んでいただき、正しく使用してください。

人への危害や、財産への損害を未然に防止するため、必ず守る必要があることを説明しています。

図記号の意味



注意を促す記号です。



禁止を示す記号です。



必ず行うことを示す記号です。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

電源プラグ・電源コードは正しく使う



- 電源プラグのほこりは定期的に取り
ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良になり、火災・感電の原因になります。

- 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
ショートによる火災・感電の原因になります。



プラグを抜く

- お手入れや点検、移動するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
感電やけがの原因になります。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしない
感電・やけど・けがの原因になります。



- 電源コードをたばねて通電しない
過熱してやけど・火災の原因になります。
電源コードは、必ずのばして使用してください。

- 交流100V以外では使わない
火災・感電の原因になります。



- 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使わない

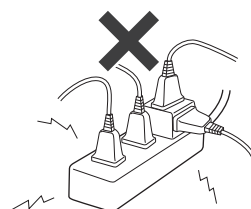
ショートによる火災・感電の原因になります。電源コードが破損したときは、修理専用コールへお問い合わせください。

- 電源コードを傷つけない
- 持ち運び時や収納時に電源コードを引っ張らない

傷つける、加工する、無理に曲げる、引っ張る、ねじる、重いものを載せる、はさみ込むなどしないでください。
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

- コンセントや延長コードなどの定格を超える使いかたをしない

火災の原因になります。



- 乳幼児に電源プラグをなめさせない
けがや感電の原因になります。



- スプレーをかけない（殺虫剤、整髪料、潤滑油など）
- 引火性のもの（灯油・ガソリン・シンナーなど）、可燃性のもののそばで使わない
- 油煙の舞う場所や近くで使用しない
引火して火災の原因になります。



プラグを抜く

- 異常・故障時には直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜く
発煙・火災・感電のおそれがあります。

【異常の例】

- ・ 異常な音やにおいがする
- ・ 電源プラグ・電源コードが異常に熱くなる
- ・ 電源コードを動かすと、通電したりしなかったりする
- ・ 運転中時々電源が切れる
- ・ 触れるとビリビリ電気を感じる
- ➡ 使用を中止し、お買い上げの販売店またはアイリスコールへお問い合わせください。



分解禁止

- 分解・修理・改造をしない
火災・感電・けが・やけどの原因になります。修理技術者以外の方が修理を行うことは危険です。
修理については、お買い上げの販売店または修理専用コールにご相談ください。



- 屋外で使用しない
故障して火災の原因になります。
- 子どもなど取り扱いに不慣れな方だけで使わない
- 乳幼児に触れさせない
けがや感電の原因になります。

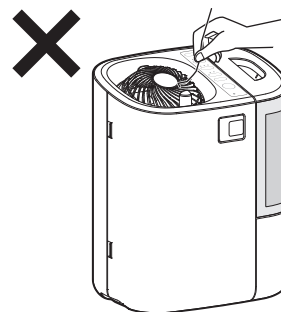


水ぬれ禁止

- 水まわり、風呂場など湿気の多い場所では絶対に使用しない
- 水につけたり、水をかけたりしない
火災・感電の原因になります。



- サークュレーターガード、吹き出し口・吸気口などのすき間にもものや手を入れない
感電やけがの原因になります。



注意

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生するおそれがある内容を示しています。

水タンクの水について



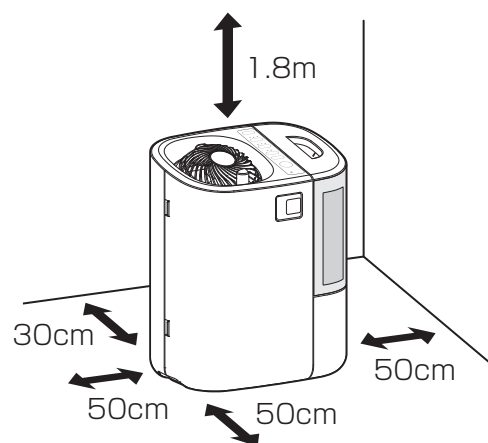
- 毎日新しいものに取り替える
水タンクは毎日振り洗いし、常に清潔にしてください。古い水を使用すると、異臭を発したり、空気を汚染して疾病の原因になります。
- 1週間以上使用しない場合は、必ず水タンク及び本体内の水を捨てる
水が入ったまま放置すると、異臭を発したり、空気を汚染して疾病の原因になります。
- 凍結しそうなときは、水タンク及び本体内の水を捨てる
凍結すると、故障・水もれにより、周囲の汚損の原因になります。



- 水道水以外は使用しない
40℃以上のお湯・化学薬品・芳香剤（アロマオイルなど）・ミネラルウォーター・アルカリイオン水・井戸水・浄水器の水などは使用しないでください。
かびや雑菌が繁殖しやすくなったり、変形・ひび割れ・変色などを起こして、水もれや周囲の汚損の原因になります。
- 残った水を料理や飲み水に使用しない
健康を害する原因になります。



- 設置の際は、カーテン・壁・家具などから、図に示す距離を離す
家具や壁、カーテンなどの汚損の原因になります。



- 加湿された風が、テレビなど電気製品に直接当たるところに設置しない
電気製品に結露したり、水のミネラル分が付着したりすると、電気製品の故障の原因になります。
- 暖房器具・テレビ・ホットカーペットなどの上で使用しない
転倒すると水がこぼれ、火災や電気製品の故障の原因になります。

安全上の注意 つづき



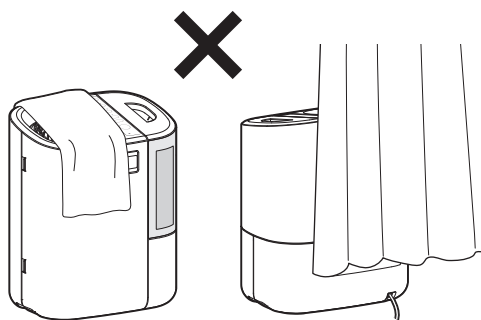
- 加湿器の上に乗ったり、寄りかかったり、ものを置いたりしない
転倒によるけがや火災の原因になります。



- 水タンクや加湿筒を正しく取り付ける
水もれや周囲の汚損の原因になります。
お手入れしたときも、各部品を正しく取り付けてください。



- 吹き出し口や吸気口をふさがない
水もれや過熱の原因になります。



プラグを抜く

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。
- 長期間使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
絶縁低下により、火災・感電の原因になります。



- 水平で安定した床の上で使用する
毛足の長いカーペットや布団の上などで使用すると、転倒してけがをしたり水もれしたりするおそれがあります。
また、台や机の上で使用すると、天井に結露し、汚損する原因になります。

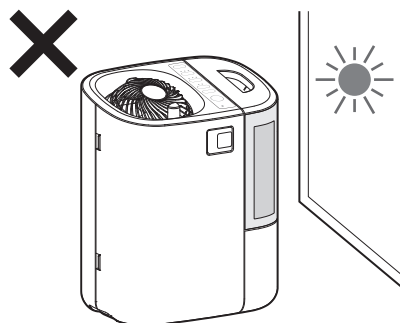


火気禁止

- 火気・暖房器具などに近づけない
- 可燃性のものや、火のついたたばこ・線香などを近づけない
火災の原因になります。

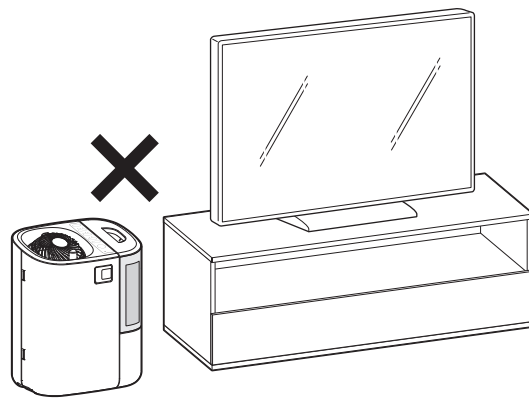
使用上の注意

- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くで使用しないでください。
変形・変色したり、センサーが温度・湿度を正しく検知できずに誤動作することがあります。



- ベンジンやシンナーで拭いたりしないでください。
破損・故障の原因になります。

- ラジオやテレビに近づけないでください。
ラジオやテレビにノイズが入る場合があります。



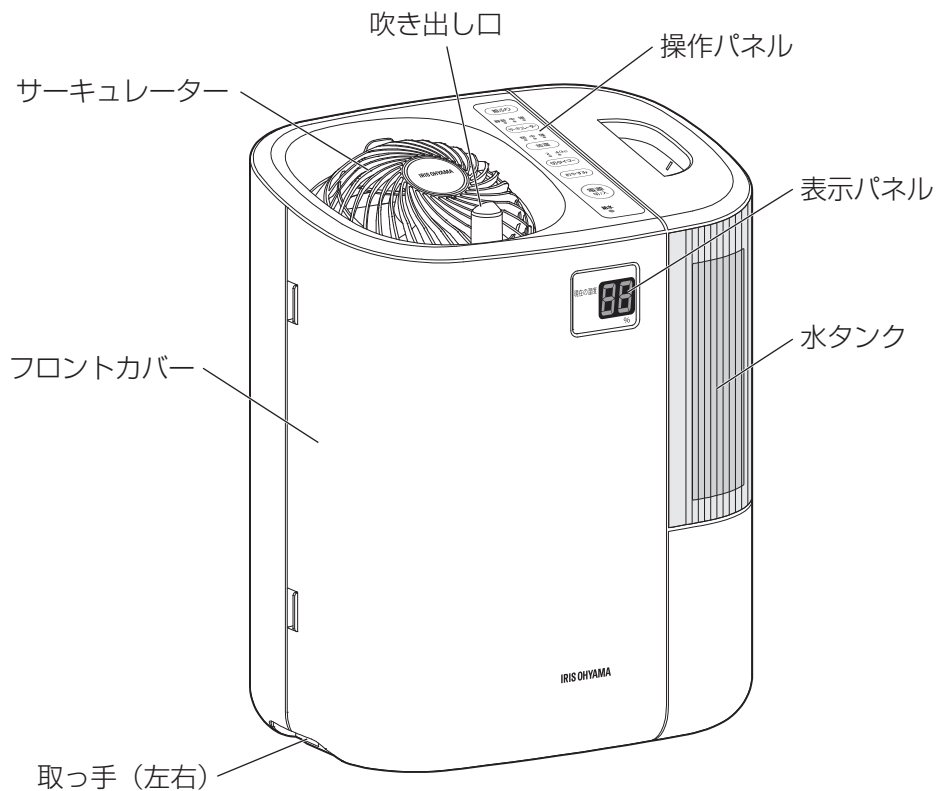
- スピーカーやIH調理器（電磁調理器）など、磁気の出る機器の近くで使用しないでください。
誤動作することがあります。

使用環境について

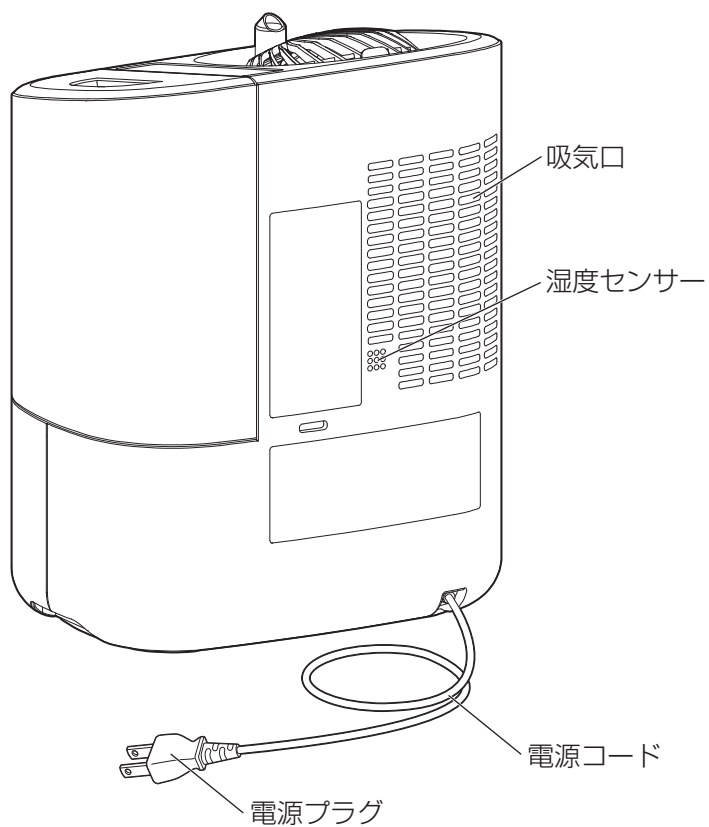
- 室温は5～35℃で使用してください。
室温が低いと、床ぬれや結露が起こりやすくなります。
- 水平で安定した床の上で使用してください。
転倒時安全装置が働いて電源が切れたり、給水が不十分になり加湿できなくなったりします。

各部の名称

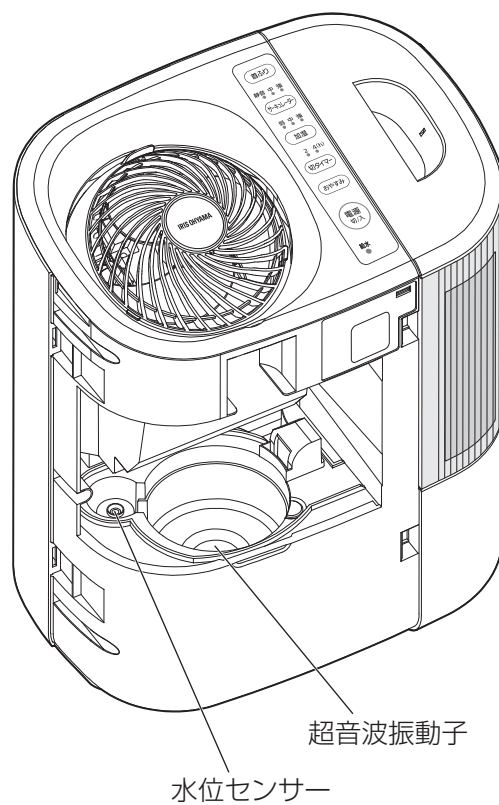
■正面



■背面



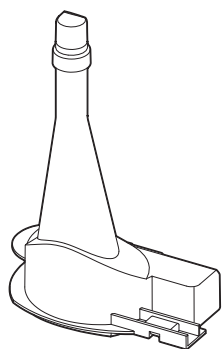
■内部



各部の名称 つづき

■ 部品

● 本体を持ち上げるときは、水タンク取っ手をつかまなくて、本体下部の取っ手をつかんでください。水が飛び散ることがあります。



加湿筒

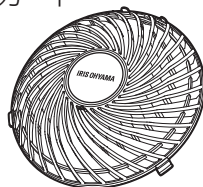


加湿カップ



抗菌銀
カートリッジ

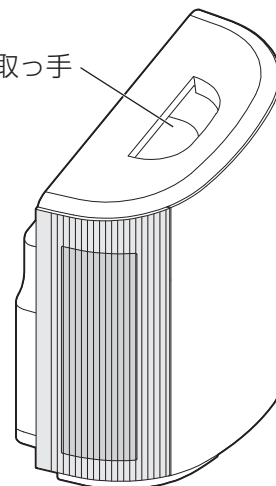
前面ガード



サーキュレーター羽根

加湿プール

水タンク取っ手

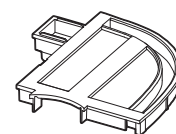


水タンク

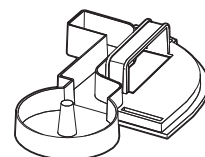


タンクキャップ

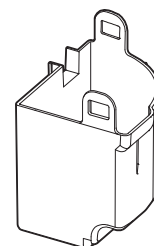
給水部



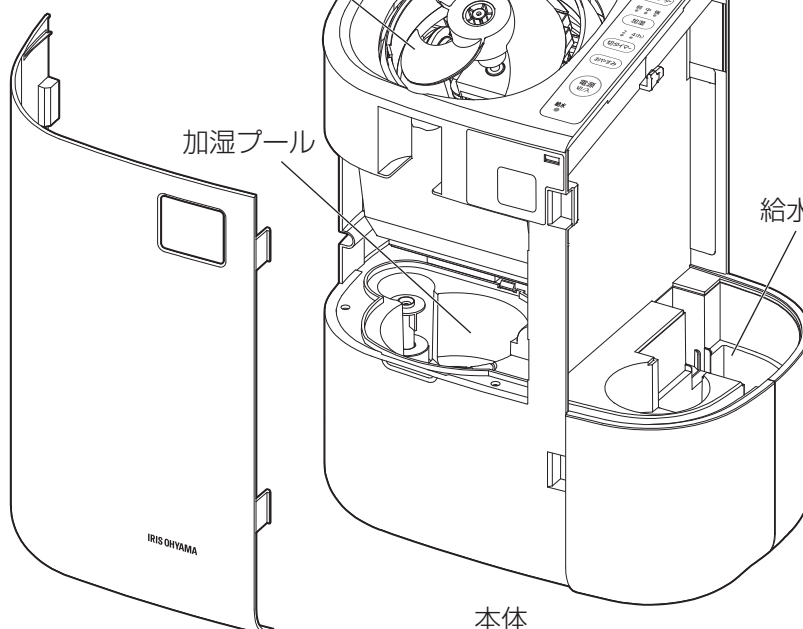
給水部ふた



排水カップふた



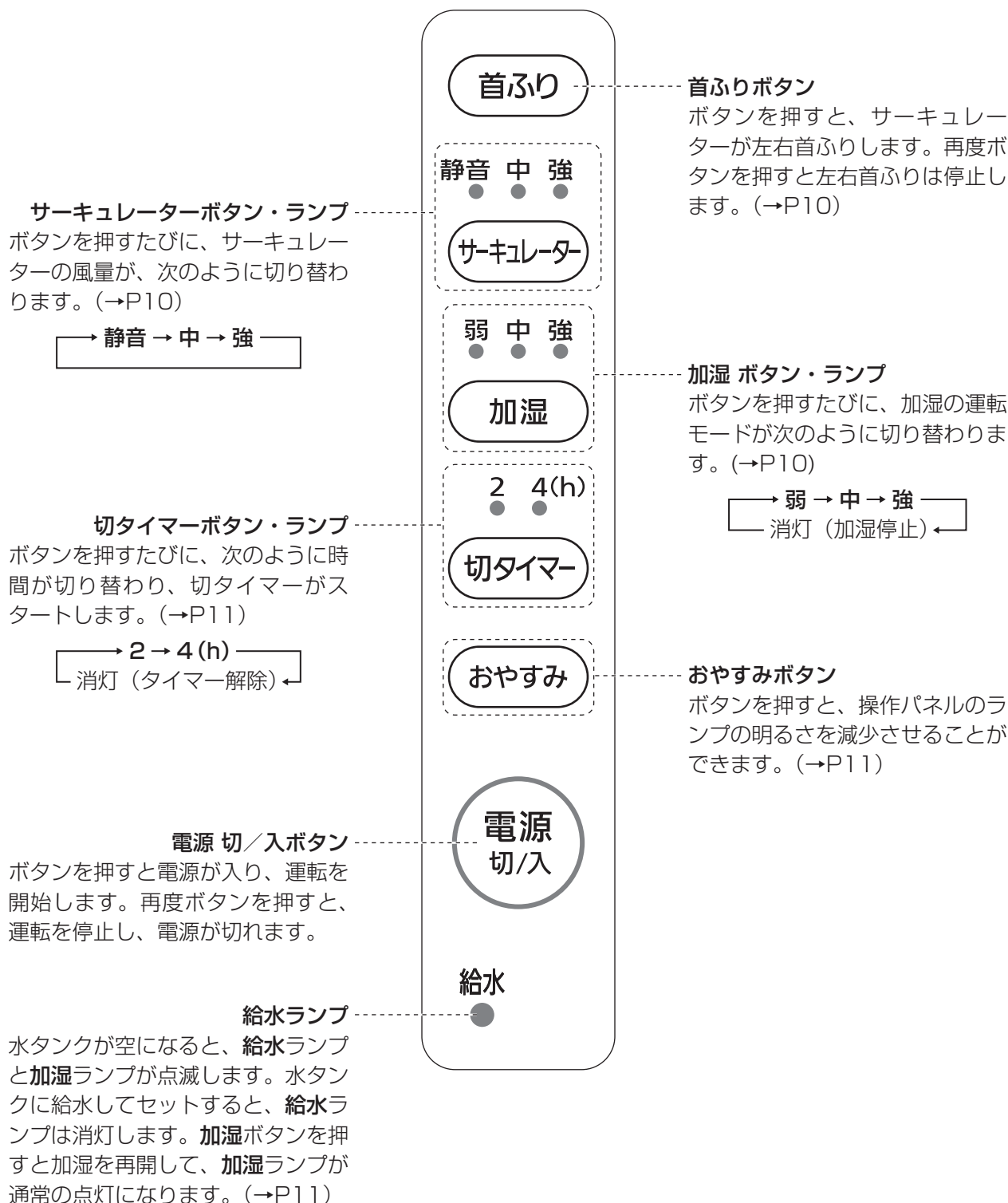
排水カップ



本体

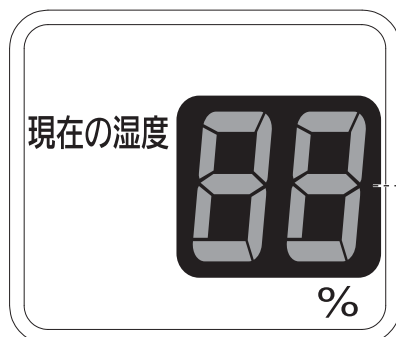
フロントカバー

■操作パネル



各部の名称 つづき

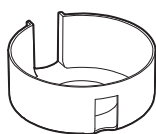
■表示パネル



現在の湿度表示
現在の湿度を表示します。

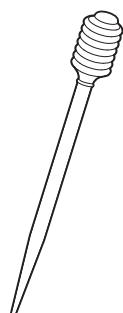
■付属品

加湿カップ（予備）

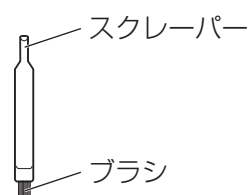


使用にともない、水に含まれるミネラル分が濃縮されて、加湿プール内に付着します。加湿カップを取り付けることによって、周囲にミネラル分が付着するのを低減します。

スポイト（お手入れ用）



ブラシ（お手入れ用）



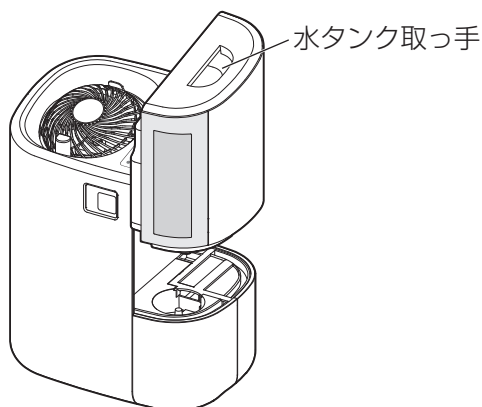
準備

■水タンクに給水する

加湿運転するときは、水タンクに給水してください。
※サーキュレーター運転だけのときは、水タンクに給水の必要はありません。

1 水タンクを外す

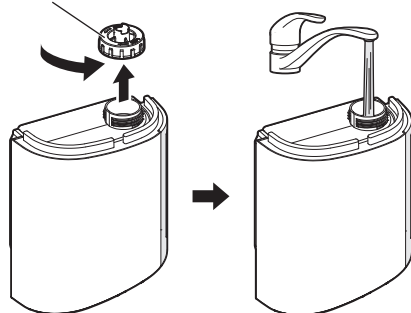
- ・水タンク取っ手に手をかけ、取り外してください。



- 水タンクを勢いよく引き上げないでください。水タンクの底やタンクキャップについた水が飛び散って、周囲がぬれることがあります。

2 タンクキャップを外し、水道水を水タンクに入れる

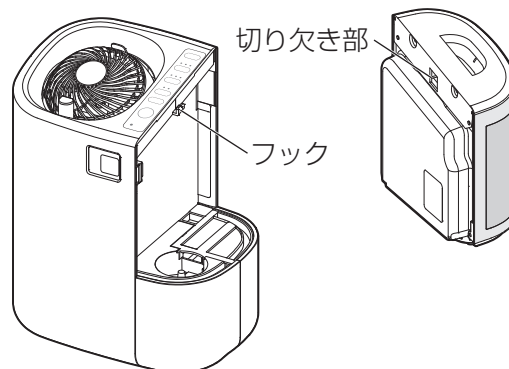
タンクキャップ



- 必ず水道水を使用してください。40℃以上の水・汚れた水・ミネラルウォーター・アルカリイオン水・井戸水・浄水器の水などは使用しないでください。
- 水に薬品・香料・精油などを入れないでください。かびや雑菌が繁殖しやすくなったり、変形・ひび割れ・変色などを起こして水ぬれや周囲の汚損の原因になります。

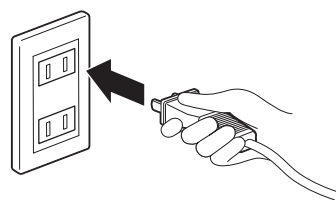
3 タンクキャップをしっかりと閉め、水タンクを本体にセットする

- ・水タンクの切り欠き部を本体のフックにかけてください。
- ※水タンクをセットするときは上から落とさないで、ゆっくりセットしてください。破損の原因になります。
- ※水タンクが斜めにセットされないように注意してください。



- タンクキャップは確実に閉めてください。タンクキャップが斜めになっていたり、ゆるんでいたりすると、水がこぼれて感電・火災・周囲の汚損の原因になります。

■電源プラグをコンセントに差し込む



※初めて使用するときに、超音波振動子付近に白い粉が出ることがあります。これは、抗菌銀カートリッジの銀化合物が輸送などで削れたものです。13ページを参照して超音波振動子を掃除してください。

使いかた

1 電源 切／入ボタンを押す

- 電源プラグを抜かずにおくと、前回使用した設定で運転を開始します。

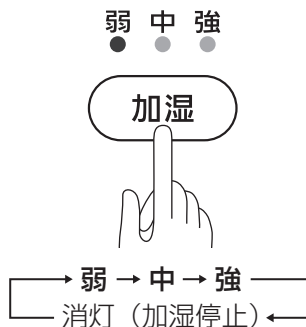


- 電源が入ると数秒間部屋の湿度を測定します。測定ができると、表示部に**現在の湿度**が表示されます。



2 加湿モードを選ぶ

- 加湿**ボタンを押すたびに、加湿モードが次のように切り替わります。



弱

目標湿度を50%に設定して、加湿量を自動で調節します。(湿度が約50%に達すると間欠加湿に切り替わり、湿度が下がると連続を再開します。)

中

目標湿度を60%に設定して、加湿量を自動で調節します。(湿度が約60%に達すると間欠加湿に切り替わり、湿度が下がると連続を再開します。)

広い部屋で使用するときや、急速に部屋の湿度を上げたいときに使用します。

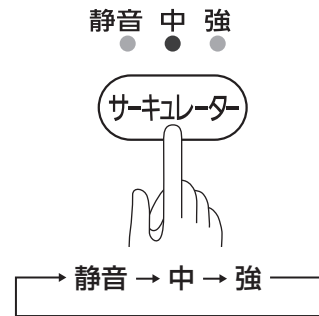
強

連続で加湿します。うるおいが足りないと感じたときなどに使用します。

※ 室温が低いときなどは、床ぬれに注意してください。

3 サーキュレーターモードを選ぶ

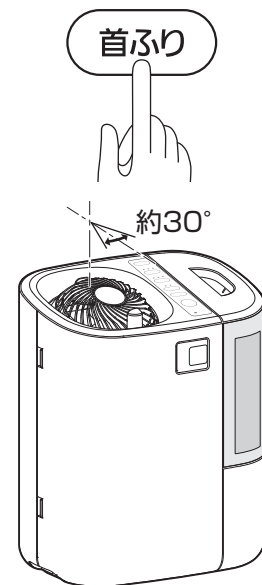
- サーキュレーター**ボタンを押すたびに、サーキュレーターのモードが次のように切り替わります。



■ サーキュレーターの首ふり

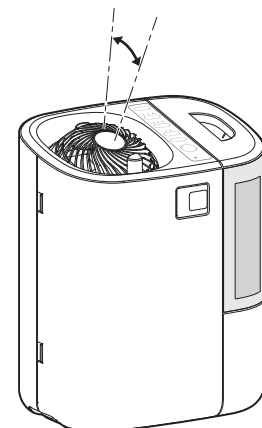
左右

- 首ふり**ボタンを押すたびに、サーキュレーターの左右の首ふりが入／切します。



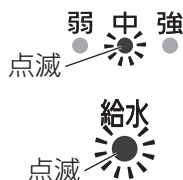
上下

- 上下の角度は、手動で2段階に切り替えできます。



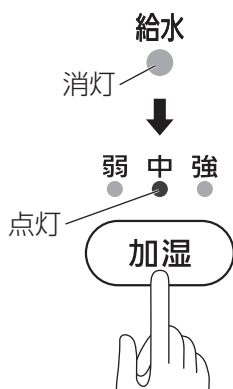
■ 給水ランプが点滅したら

- ・ 使用中に水タンクが空になると、「ピー」と5回鳴り、運転中のモードの加湿ランプと給水ランプが点滅して運転を停止します。



- ・ 水タンクに給水し、本体にセットすると、給水ランプは消灯します。加湿ボタンを押すと、加湿ランプは通常の点灯になり、給水ランプ点滅前のモードで再スタートします。

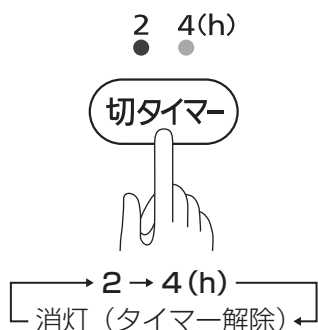
※ 水タンクをセットしてから、本体内部に給水されて給水ランプが消灯するまでは、20秒程度かかります。



■ 切タイマー

タイマーで時間を設定すると、設定した時間後に電源を切ることができます。

- ・ 切タイマーボタンを押すたびに、次のように時間が切り替わり、切タイマーがスタートします。



- ・ 設定した時間が経過すると、加湿・サーキュレーターとも運転が停止して、電源が切れます。

■ 停止するには

電源 切/入ボタンを押す

- ・ 加湿・サーキュレーターとも運転を停止し、10秒間の内部乾燥運転の後、電源が切れます。
- ※ すべてのランプ消灯後も、10秒間は電源プラグを抜かないでください。



■ 明るさの調節(おやすみモード)

就寝時などに、操作パネルのランプの明るさを減少させることができます。

- ・ 運転中におやすみボタンを押すと、ランプの明るさが減少します。



- ・ 再度おやすみボタンを押すと、ランプの明るさは元に戻ります。
- ・ 電源を切/入したときは、通常の明るさに戻ります。

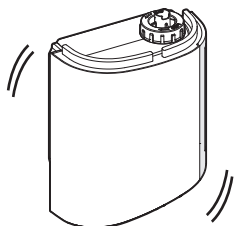
お手入れ

- シンナー、ベンジン、酸性・アルカリ性の強い洗剤、漂白剤などは使用しないでください。

■水タンク 毎日

水タンクに少量の水を入れ、タンクキャップを閉めて振り洗いする

※汚れが落ちにくい場合は、薄めた台所用中性洗剤を使用してください。洗った後は、洗剤分が残らないように、しっかりすすいでください。



- 水タンクを勢いよく引き上げないでください。水タンクの底やタンクキャップについた水が飛び散って周囲がぬれることがあります。

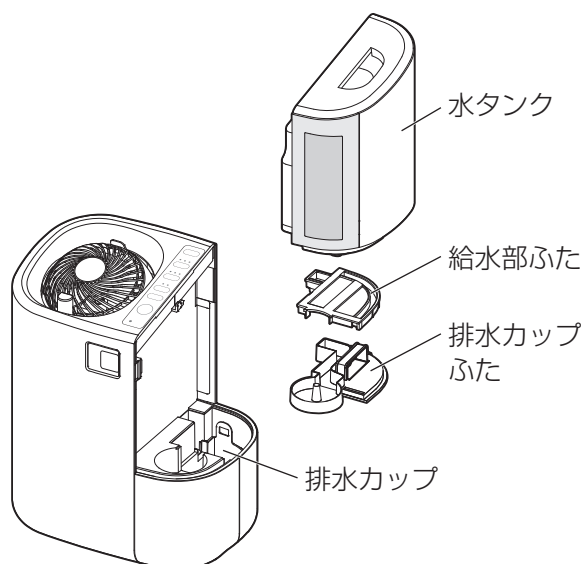
■加湿器内部 2週間に1回程度



- 加湿器内部をお手入れするときは、電源を切り、電源コードを抜いてから行ってください。

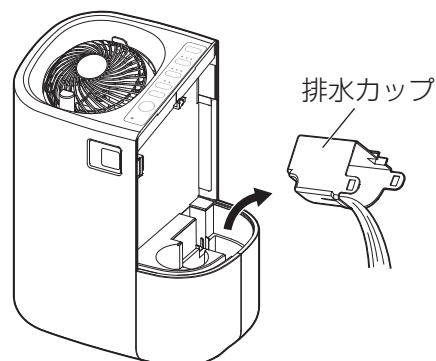
1 水タンク・給水部ふた・排水カップふたを取り外す

- ・本体に残った水が排水カップに流れ込みます。
- ・排水カップが浮き上がる場合は、静かに押し込んで沈めてください。内部に残った水が排水カップに流れ込みます。



2 排水カップを外し、排水する

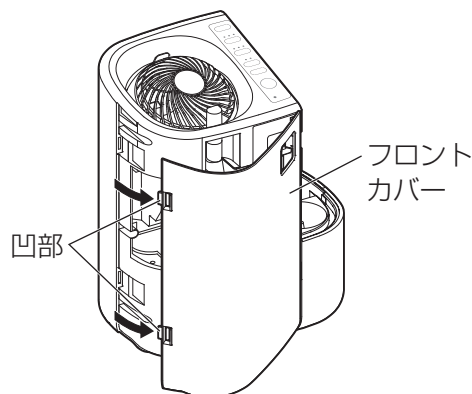
- ・本体内部の水が流れ込んだら、排水カップを静かに持ち上げ、中にたまった水を捨ててください。



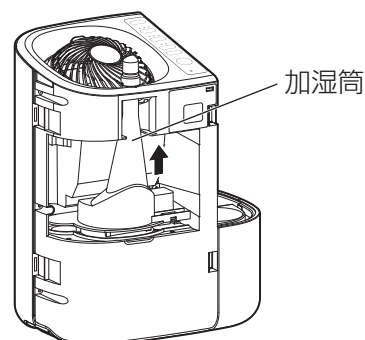
※排水カップを元に戻すときは、中に残った水が飛び散らないように、静かに押し込んでください。

3 フロントカバー・加湿筒・加湿カップ・抗菌銀カートリッジを取り外す

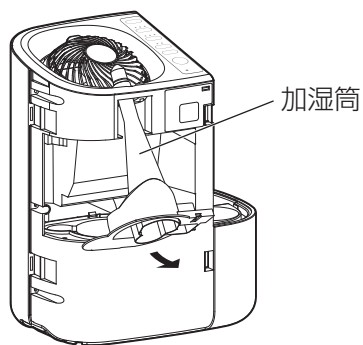
- ① フロントカバーの左側凹部に指をかけ、前に引っ張って外してください。



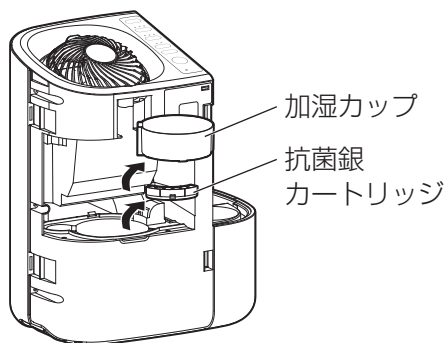
- ② 加湿筒を持ち上げてください。



③ 下側を手前に引き出して、本体から取り出します。

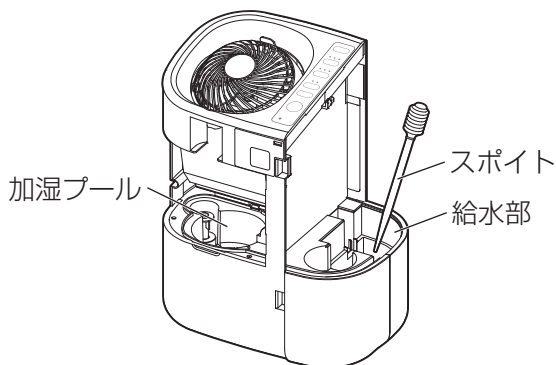


④ 加湿カップ・抗菌銀カートリッジを、まっすぐ上に引っ張って外してください。

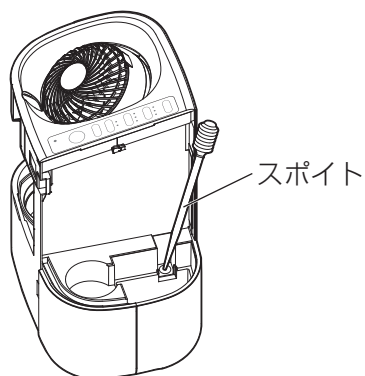


4 付属のスポイトなどで、本体内に残った水を吸い取る

- 給水部（排水カップを取り外したところ）・加湿プール内にたまった水を、付属のスポイトで吸い取ってください。

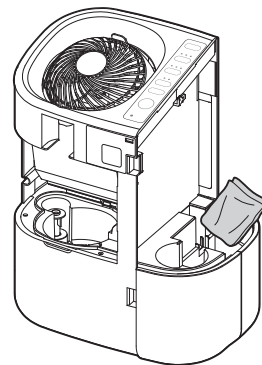


- 加湿プールへ通じる穴も、スポイトを使用して残った水を吸い取ってください。

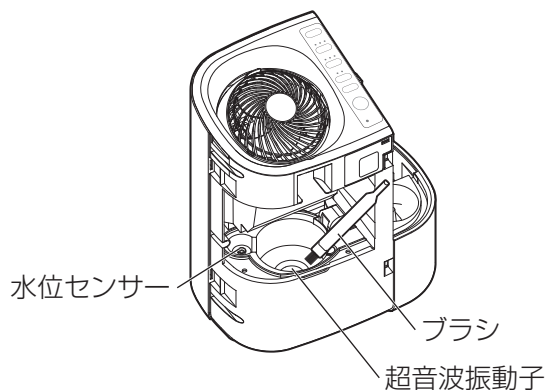


5 内部を掃除する

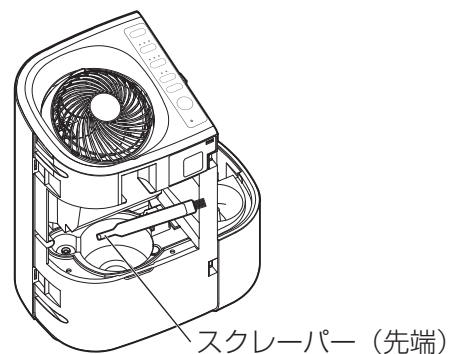
- 柔らかい布などで拭いてください。
- 届きにくいところは、柔らかい布などを入れて、棒などを使用してよく拭いてください。
- 汚れが落ちにくい場合は、薄めた台所用中性洗剤で拭いた後、洗剤が残らないように、固く絞った布でよく拭き取ってください。



- 水位センサーの下はごみがたまりやすいので、きれいな水を流して取り除いてください。
- 超音波振動子は、付属のブラシでやさしく掃除してください。超音波振動子に傷がつくと、加湿量が低下する原因になります。



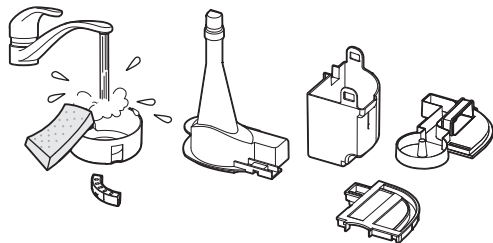
- 加湿プール内に汚れがこびりついている場合は、付属のブラシのスクレーパー側でこそげ落としてください。



お手入れ つづき

6 取り外した部品を洗う

- ・ スポンジなどで洗ってください。

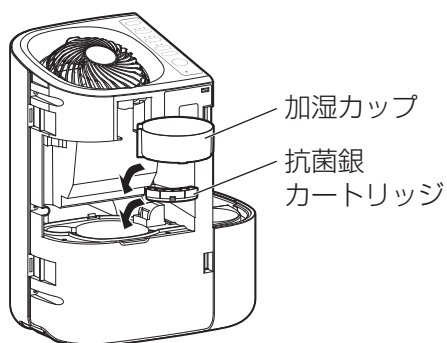


- ・ 組み立てる前に、よく乾かしてください。

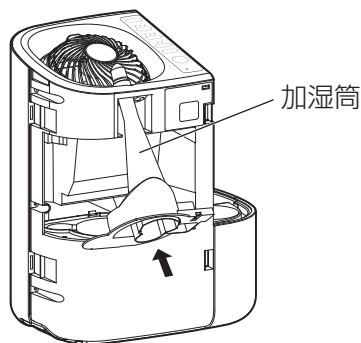
- 加湿カップは、洗っても汚れが落ちなくなってきたら、予備のものに取り替えてください。
- 加湿カップは、水のミネラル分が濃縮して加湿プール周囲に付着するのを低減するためのものです。必ず取り付けて使用してください。

7 元どおりに組み立てる

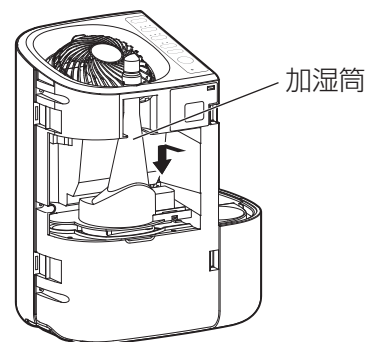
- ① 抗菌銀カートリッジ・加湿カップを、まっすぐ上から差し込んでください。



- ② 加湿筒を本体の下から差し込み、

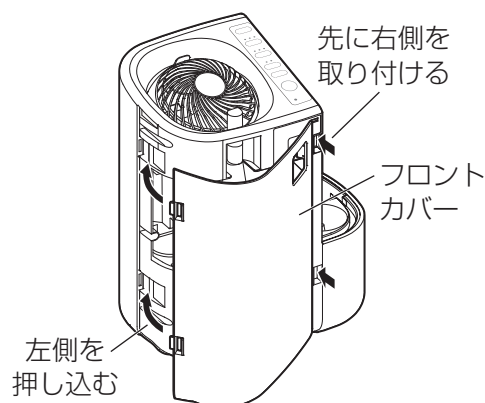


- ③ 加湿筒の下側を元の位置（加湿プールの上）にはめ込みます。

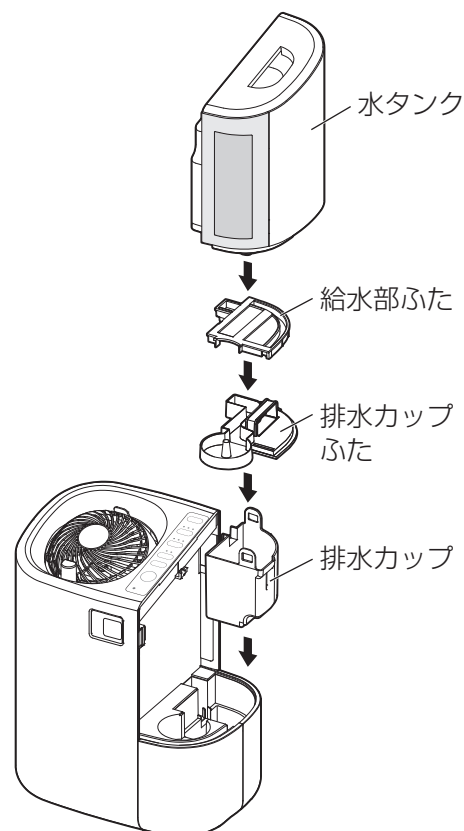


- ※ 取り付け後、きちんと正しい位置にはまっているか、確認してください。

- ④ フロントカバーの右側を取り付けてから、左側を押し込んで取り付けてください。

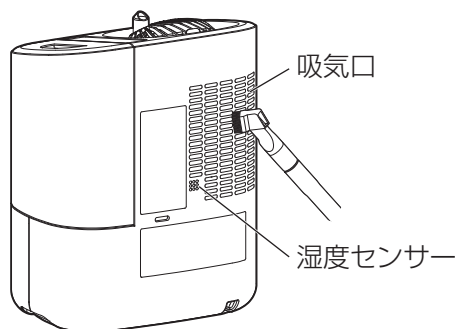


- ⑤ 排水カップ・排水カップふた・給水部ふたをまっすぐ上から差し込み、水タンクを載せてください。



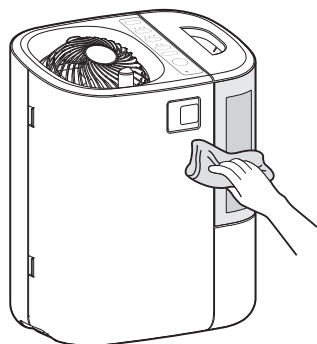
■ 吸気口 1か月に1回程度

- ・ 掃除機などで、背面の吸気口のほこりを取り除いてください。
- ・ 湿度センサーも、ほこりが付着していたら取り除いてください。



■ 本体外側 1か月に1回程度

- ・ 水またはぬるま湯（40℃以下）を含ませた柔らかい布をよく絞って、汚れを拭き取ってください。



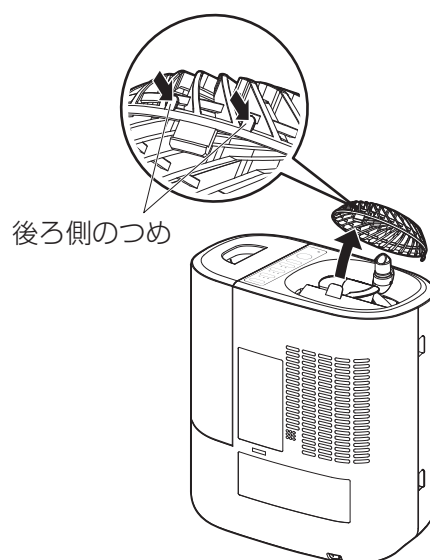
■ サーキュレーター 2か月に1回程度



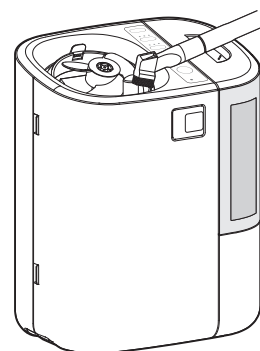
- サーキュレーターをお手入れするときは、電源を切り、電源コードを抜いてから行ってください。

1 サーキュレーターの前面ガードを外す

- ・ 後ろ側2か所のつめを、手前に引きながら持ち上げて外してください。



2 掃除機などでごみを取り除く

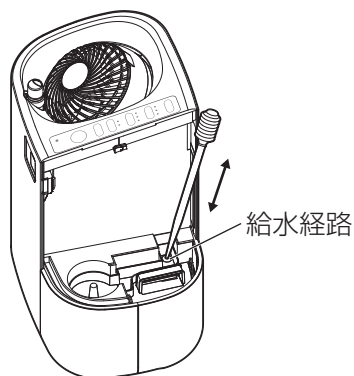


- ・ 掃除機で取りきれない箇所は、柔らかい布などで拭いてください。



内部に気泡が入った場合は

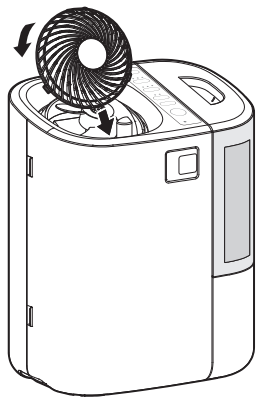
ごくたまに、内部の給水経路に気泡が入り、水タンクの水が給水されなくなることがあります。水タンクに給水し、本体にセットしても加湿されない場合は、水タンクと給水部ふたを外して、排水カップふたの給水経路にスポイトを差し込み、4～5回抜き差しして気泡を除去してください。



お手入れ つづき

3 前面ガードを取り付ける

- ・ 前側をはめ込んでから、後ろ側をパチンとはまるまで押し込んでください。

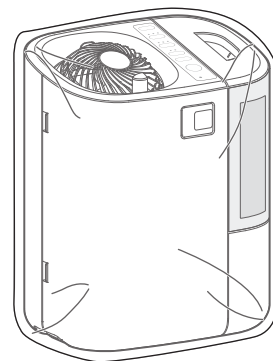


収納のしかた

1 水タンク・本体から排水し、お手入れして、よく乾かす

- ・ お手入れ（→P12～16）を参照して、お手入れしてください。

2 梱包箱に入れるか、ポリ袋をかぶせて、湿気の少ない場所で保管する



- ・ 水タンクを水洗いしたり、給水したりしたときに、水タンク本体と水位窓のパネルの間に水が入ることがあります。収納する場合は、そのまま放置してよく乾かしてから、収納してください。

故障かな？と思ったら

使用中に異常が生じた場合は、修理を依頼される前に本書をよくお読みのうえ、以下の点を確認してください。

状 態	考えられる理由	処 置
電源が入らない	●電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていない	●電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
加湿されない	●加湿モードが切になっている（加湿ランプが消灯）	●加湿ボタンを押して、加湿のモードを選んでください。（→P10）
	●水タンクが空になった（給水ランプと加湿ランプが点滅）	●水タンクに給水してください。（→P9）
水タンクに水が入っているのに、給水ランプが点滅する	●内部の給水経路に気泡が入ることがある	●水タンクと給水部ふたを外して、排水カップふたの給水経路にスポイトを差し込み、4～5回抜き差しして気泡を除去してください。（→P15）
	●水位センサーにごみがつまっている	●水位センサーのごみを取り除いてください。（→P12～14）
	●水タンクをセットしてから、本体内部に水が供給されるまで、少し時間がかかる	●水タンクをセットしてから、20秒程度お待ちください。本体内部に水が供給されると、給水ランプが消灯します。
霧の出が少なくなった	●背面の吸気口が目づまりしている	●背面の吸気口を掃除機などでお手入れしてください。（→P15）
	●超音波振動子が汚れている	●超音波振動子を掃除してください。（→P13）
霧が出たり、出なかったりする	●各モードで、目標湿度に達している	●中・弱モードでは、目標湿度に達すると間欠加湿に切り替わります。
床がぬれる	●室温が低い	●室温が低いと、床ぬれが起こりやすくなります。加湿するときは、室温を適度に上げながら加湿してください。
湿度が上がらない	●部屋が適用床面積より広すぎる	●適用床面積以内で使用してください。（→P19）
	●窓やドアが開いている	●窓やドアを締めて使用してください。
ランプが暗い	●おやすみモードになっている	●ランプの明るさを標準に戻すには、おやすみボタンを押して、おやすみモードを切にしてください。（→P11）

故障かな？と思ったら つづき

水もれする	● 水タンクを勢いよく取り外した	● 水タンクの底やタンクキャップについた水が飛び散ることがあります。水タンクは注意してゆっくりと引き上げてください。
	● タンクキャップがきちんと閉まっていない ● タンクキャップが斜めに閉まっている	● タンクキャップをきちんと閉めてください。
	● 水タンク・本体内に水が入ったまま移動した	● 移動するときは、先に水タンク・本体内の水を捨ててください。
においがする	● 本体内部や吸気口が汚れている	● 加湿器内部や吸気口をお手入れしてください。(→P12～15)
	● 水が古くなっている	● 水タンク・本体内の古い水を捨て、新しい水を給水してください。
	● 抗菌銀カートリッジが入っていない	● 抗菌銀カートリッジを入れ、水タンク・本体内の水を捨てて、新しい水を給水してください。
動作が停止した (給水ランプが点滅)	● 水タンクが空になった	● 水タンクに給水して本体にセットしてください。(→P9)
動作が停止した エラー表示 E1	● 本体が傾いた、または大きくゆれた	● 水平で安定した床の上に設置して、電源を入れ直してください。
動作が停止した エラー表示 E2	● 加湿筒が外れている	● 加湿筒を正しく取り付け、電源を切/入してください。
動作が停止した エラー表示 E4 E5	● ヒーターが過熱している、または安全装置が故障している	● ただちに運転を停止して、修理専用コールへご相談ください。
動作が停止した エラー表示 E6	● 湿度センサーが誤動作した、または故障した	● 電源を入れ直してください。直らない場合は、修理専用コールへご相談ください。
動作が停止した エラー表示 E7	● 本体内のファンが回転していない、または故障した	● 電源を入れ直してください。直らない場合は、修理専用コールへご相談ください。
電源を切にしても、運転が停止しない	● 電源が切れた後、10秒間の内部乾燥を行う	● 内部乾燥が終わると、完全に停止します。

それでも解決できないときは

お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。



警告

● 自分で分解・修理・改造しないでください。

仕様

定格電圧	AC100V	
定格周波数	50Hz	60Hz
定格消費電力	160W	155W
適用床面積	木造和室	9畳
	プレハブ洋室	15畳
加湿量	潤い・連続	約550mL / h
連続加湿時間※1	約6.7時間	
タンク容量	約3.7L	
寸法	幅322×奥行220×高さ395mm	
質量（水を含まず）	約5.3kg	
電源コード長	約1.5m	

※1 最大加湿量で連続加湿した場合

※ 適用床面積は保証値ではありません。

※ 商品の仕様は予告なく変更することがあります。

※ 超音波振動子の寿命は、約5,000時間です。適正な広さの部屋で1日8時間、1年のうち4か月使用した場合、約5年間で使用いただけます。

長年ご使用のサーキュレーター加湿器の点検を！		
愛情点検 	こんな症状はありませんか	● 電源プラグ・電源コードが異常に熱くなったり、こげくさいにおいがする ● 本体に触れるとピリピリ電気を感じる ● 水もれする ● 運転中に異常な音がする ● 電源コードが傷ついている ● その他の異常や故障がある ▶ ご使用中止 故障や事故防止のため、電源を切って、コンセントから電源プラグを抜き、必ず販売店に点検を依頼してください。

廃棄について

● 製品や梱包材の廃棄については、お住まいの自治体の取り決めにしたがって処理してください。

サーキュレーター加湿器 HCK-5519

保証書

本書は、お買い上げ日から下記期間内に故障が発生した場合に、下記の保証規定により無料修理を行うことをお約束するものです。

お買い上げ日 ※		保証期間	
年 月 日		お買い上げ日より：1年間 ただし、消耗品（付属品など）を除く	
お客様	お名前		※ 販売店
	ご住所 〒		
	電話（ ） -		
		住所・店名	
		電話（ ） -	

販売店様へ： ※印欄は必ず記入してお渡してください。

保証規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で故障及び損傷した場合には、弊社が無料にて修理または交換いたします。
- 保証期間内に、故障などによる無料修理をお受けになる場合には、お買い上げの販売店にて、保証書をご提示のうえ、修理をご依頼ください。
- 保証内容は本製品自体の無料修理に限ります。保証期間内においても、その他の保証はいたしかねます。
- ご転居や贈答品などで本保証書に記入してある販売店に修理をご依頼になれない場合には、アイリスコールにお問い合わせください。
- 保証期間内におきましても次の場合には有料修理になります。
 - 使用上の誤り、不当な修理、改造などによる故障及び損傷
 - お買い上げ後の落下などによる故障及び損傷
 - 火災、地震、その他の天災地変による故障及び損傷
 - 一般家庭用以外（たとえば業務用の長時間使用、車両・船舶への搭載など）に使用された場合の故障及び損傷
 - お買い上げ後の移動、輸送または什器・備品などとの接触による故障及び損傷
 - 本書の提示がない場合
 - 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行しているもの（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。

※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間については、「保証とアフターサービス」をご覧ください。

保証とアフターサービス

必ずお読みください。

■ 保証書

お買い上げの際に、所定の事項が記入されている保証書をお買い上げの販売店より必ずお受け取りください。

保証書がないと、保証期間内でも代金を請求させていただく場合がありますので、大切に保管してください。

■ 保証期間

保証期間は、保証書に記載されています。

保証期間内に故障した場合は、保証規定にしたがって修理させていただきます。

■ 保証期間経過後の修理

お買い上げの販売店または修理専用コールにご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合は、ご要望により有料にて修理いたします。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5年間保有しています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ アフターサービスについて

ご不明な点は、お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。

アイリスオーヤマ株式会社

〒980-8510 仙台市青葉区五橋2丁目12番1号 ホームページ <http://www.irisohyama.co.jp/>

製品に関するお問い合わせは

アイリスコール 通話料無料

0120-311-564

修理に関するお問い合わせは

修理専用コール 通話料無料

0800-170-7070

受付時間 平日 9:00～17:00、土・日・祝日 9:00～12:00 / 13:00～17:00 （年末年始・夏期休業期間・会社都合による休日を除く）

FAX でのお問い合わせは

通話料無料

0800-888-2600

Web からのお問い合わせは

<https://www.irisohyama.co.jp/support/>

メールフォームにご記入のうえ送信してください